



●新春企画

次代を担う 若者たちに聞く

2014年、新しい年が始まりました。輝かしい新年の幕開けに当たり、ことし、本市を舞台に活躍または本市から大きく羽ばたこうとしている、さらに現在、さまざまな方面で活躍している若者たちにスポットを当てました。

本市の将来を担う若者たちが、それぞれの夢や目標、郷土を愛する思いなどを熱く語ってくれました。ここでは、その若者たちの思いを皆さんにお伝えします。



ソロライブを前にした練習。熱が入り汗がほとばしる

バンド活動と仕事を両立し 一人前の社会人を目指す

岩渕 雄佑さん（22歳）
＝水沢区佐倉河字腰廻＝

いわぶち・ゆうすけ◎平成3年久慈市生まれ。胆沢保育園に保育士として勤務。24年にメジャーデビューしたバンド、RAZZYでドラムを担当している。昨年末には北上市のさくらホールでソロライブを開催。父、母、兄、祖父、祖母の6人家族

「子どもたちと触れ合うことが好きです」という岩渕雄佑さんは、保育園で1歳児の保育を受け持っている。穏やかな表情で受け答える雄佑さんだが、その反面、メジャーバンドの一員として活躍している。小学4年から始めたドラム演奏。水沢太鼓にも所属し、幼少期から取り組んでいる太鼓演奏と吹奏楽でリズム感が培われた。

「被災地の岩手出身バンドとして、皆さんに少しでも元気を届けられたら——」と話す雄佑さん。「保育士としての仕事がありながら、本格的にバンド活動に取り組むべきか、正直迷っています」と、次のステップを模索し続けている。

騎手免許を取得して 岩手競馬で活躍したい

鈴木 麻優さん（17歳）
＝栃木県那須塩原市接骨木＝

真っ暗な早朝から馬の調教に取り組む



「おはようございます」——。まだ日が昇らない早朝の水沢競馬場。暗闇の中から元気な女性の声が響く。鈴木麻優さんは、競馬の騎手を目指し、日々その訓練に励んでいる。

もともと動物好きの麻優さん。小学生のころ、父親に連れられ競馬場にはよく来ていた。最後方から豪快に差す競馬をテレビで見たととき、騎手を目指す心に決めた。

「兄弟子・菅原俊吏騎手のように馬の気持ちを読んで、丁寧に騎乗できるようにになりたい」という麻優さんは「2月の騎手免許試験に合格し、ジョッキーとして岩手に戻ってきた」とその目を輝かせながら、握るステッキに力を込める。



すずき・まゆ◎平成8年宮城県気仙沼市生まれ。栃木県の地方競馬教養センターに身を置き、昨年8月から水沢の伊藤和厩舎で研修。騎手免許を取得した暁には、岩手競馬でデビューする予定となっている。家族は、父、母、妹、祖父、祖母、曾祖母

みんなで作り上げる舞台を 楽しんでもらいたい

菊地 彩美さん（19歳）
＝胆沢区若柳字愛宕＝

立ち稽古前の台本読み合わせでも感情は豊かに表現



「胆沢劇場だからこそ舞台に立つんです」と言い切る菊地彩美さんは、ことしの胆沢劇場「大堤祈りの松」で初めて主役を演じる。中学2年のとき、後輩に誘われて飛び込んだ演劇の世界。舞台の上で脚光を浴び、すぐさまそのとりこになった。中学、高校とテニス部に所属していた彩美さんは、いさわジュニアリーダーズクラブ「サポテン」にも所属。ボランティア活動でも地域に貢献している。「胆沢が好き。地域のために貢献したい」と郷土愛あふれる彩美さん。「仲間とのつながりを大切に、そして地域での活動を通して自分自身が成長したい」と、そのまなざしは遠くを見つめた。



きくち・あみ◎平成6年胆沢区愛宕生まれ。中学2年から胆沢劇場にキャストとして携わる。介護関係の仕事の傍ら、2月の公演に向けた稽古に励み、第30回奥州胆沢劇場「大堤祈りの松」で主役を演じる。兄3人、姉3人の7人きょうだいの末っ子